専門研修プログラム名	阪南病院精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	医療法人杏和会阪南病院	
プログラム統括責任者	横田　伸吾	

専門研修プログラムの概要	民間精神科病院を基幹病院とする本プログラムは、地域社会に根ざした臨床実践的な内容のプログラムを目指している。そのため高度救命救急センターを含む29診療科、768床を有する公的基幹総合病院（精神科閉鎖病棟34床）、企業立の総合病院精神科、地域で精神医療の中核を担っている単科精神科病院をローテートする。基幹病院を中心に連携病院での研修を実践し、精神科救急や措置入院患者への対応を通して一般的な精神科臨床の基礎を学ぶと共に、精神保健福祉法、医療観察法などの理解を深め、遵守、実践する。慢性期精神疾患の中には長期入院となった最重度の症例も含まれており、精神科医療が抱える様々な諸問題についても体験することにより、自ら学び考える態度を養うことになる。さらに、基幹病院ではガイドライン講習を病院全体で実践すると共に、専門医療として睡眠障害治療、児童・思春期診療、認知症治療など幅広く精神科医療を学ぶことができる。医局内に臨床教育センターを設置し、専門医および精神保健指定医取得へ向けた密度の高い指導を行う体制とした。	
専門研修はどのようにおこなわれるのか	１年目：指導医のもと、主治医となった患者及び、指導医の患者の担当医として、指導医とともに統合失調症、気分障害、器質性精神障害を中心に、様々な疾患の患者を受持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学ぶ。面接では、情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学び実践する。２年目：指導医のもと自立して、面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させるとともに、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的 精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。また、連携施設での研修を通してリエゾン・コンサルテーション精神医学や企業でのメンタルヘルス、依存症症例、およびスポーツ精神医学を経験する。３年目：指導医から自立して診療できるようにする。認知行動療法や力動的精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域 精神医療等を学ぶ。	
専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	将来、精神科専門医としてあらゆる症例にも的確で実践的な精神医療を行うための、一般的な素養を身につけることを目指したプログラムである。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	地域連携、地域包括ケアの実際を主治医及び、研修チームや多職種の中で学び精神科医師としての診療の幅を拡げていく。また、カンファレンスなどで得た情報を総合的に判断し診療に活かすと共に、主治医のスーパーバイズを受けながら外来対応から入院医療、さらに単独で患者の主治医となり責任を持った医療を遂行する対応力を身に着ける。さらに、退院支援委員会など行政も入った退院カンファにも担当医として参加することで経験を積み、あらゆる症例に対応できる態度と診療能力を養う。
	学問的姿勢	専攻医は医学、医療の進歩に遅れることなく、常に自己研鑽することが求められる。患者の日常的診療からみえてくる問題を日々の学習や、指導医への質問により解決し、解決できない問題についても、積極的に臨床研究や基礎研究に参加することで、解決の糸口を見つけようとする姿勢が求められる。

	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	医師が地域活動に積極的に参加、また講演する機会も少なくない。連携している、大阪府急性期・総合医療センターや大阪鉄道病院では他科の専攻医とかかわる機会がある。リエゾン・コンサルテーション症例をとおして身体科との連携を持ち、医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。
施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	モデル①初年度は基幹施設である医療法人杏和会阪南病院、2年目より連携先病院での実務研修（9～12ヶ月）を実施、3年目は基幹施設に戻り、これまでの知識と経験を実践に生かす。
	研修施設群と研修プログラム	大阪急性期・総合医療センター（公的基幹総合病院）JR大阪鉄道病院（企業立の総合病院精神科）新阿武山病院（地域で精神医療の中核を担っている単科精神科病院）をローテートする
	地域医療について	基幹病院では地域立脚医療を実践する中で、地域にある関連事業所と連携し、地域で生活、就労する障害者へ関わり、チーム医療をもって多職種とともにしっかりサポートする。
専門研修の評価	１年ごとにプログラムの進行状況ならびに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。それらは日本精神神経学会の実績管理システム内で実践される。	
修了判定	指導医の評価に加え、3年間のプログラム修了時点での実績管理システムでの評価状況、記載漏れなどないことを管理委員会にて確認し、修了判定を行う。	
専門研修管理委員会	専門研修プログラム管理委員会の業務	専攻医の評価及び個々の専攻医の研修状況について確認、管理、改善を行う。また、連携先病院との調整を行い、外病院での実務研修がスムーズに進むよう対応する。
	専攻医の就業環境	基幹施設では医局内に席を設け、PC、白衣など貸与している。就業時間は9:00～17:00残業はなし。月2回程度当直（日当直を含むこと有）業務があるが、明けは申し送りが済み次第帰宅。日当直の場合も、3ヶ月以内に振替休日をとれる仕組みとしている。
	専門研修プログラムの改善	基幹施設では、臨床研修委員会を（一部メンバーにて）定期的に開催し、勤務状況や病棟での様子を確認する。臨床研修委員会全体会は年1回開催とし、連携先病院での研修状況など確認、問題点の抽出と改善を行う。また、専攻医からの意見や評価を専門医研修プログラム管理委員会の研修委員会で検討し、次年度のプログラムへの反映を行う。
	専攻医の採用と修了	自己応募で、見学の上、希望があれば面接実施の上、採用選考を行う。研修プログラムは3年間とし、プログラム終了後も引き続き常勤医として勤務する。
	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	プログラム途中での退職や出産育児などを伴う際には、中止、中断を行う。

	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	連携施設とは連絡を密にとっており、訪問はしていない。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	黒田健治（阪南病院院長）横田伸吾（阪南病院副院長）土井拓（阪南病院副院長）松島章晃（阪南病院副院長）佐野祥子（阪南病院医長）車井祐一（阪南病院臨床教育センター副センター長）門間太作（阪南病院医師）田中顕正（阪南病院医師）松田康裕（大阪府急性期・総合医療センター主任部長）岡村武彦（新阿武山病院院長）菊山裕貴（新阿武山病院医局長）江村成就（大阪鉄道病院精神神経科部長）	
Subspecialty領域との連続性	専門医取得後は、さらなる専門性向上のため、子どものこころ専門医、日本睡眠学会認定医、日本精神科救急学会認定医、日本老年精神学会認定医など各人の志向に沿った資格取得をサポートできる体制を持つ。	